

公開実用平成 2-77159

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平2-77159

⑬ Int.Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)6月13日

B 60 R 11/02
B 60 J 7/00
7/02

C 8920-3D
Z 8710-3D
8710-3D

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 自動車におけるテレビの取付構造

⑯ 実 願 昭63-157548

⑰ 出 願 昭63(1988)12月2日

⑱ 考 案 者 大 江 好 文 栃木県芳賀郡高根沢町宝積寺2281-1 ラフォーレ201

⑲ 出 願 人 本田技研工業株式会社 東京都港区南青山2丁目1番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 落 合 健 外1名

明 細 書

1. 考案の名称

自動車におけるテレビの取付構造

2. 実用新案登録請求の範囲

車体のルーフに天窓を開口すると共に、その天窓を開閉し得る開閉板を設けてなる、自動車において、前記天窓の開口縁部にその開口縁部に沿って位置調節可能に固着される支持具と、この支持具に支持されて車室内に収容されるテレビとを有することを特徴とする、自動車におけるテレビの取付構造。

公開実用平成 2-77159

3. 考案の詳細な説明

A. 考案の目的

(1) 産業上の利用分野

本考案は、自動車、特に車体のルーフに天窓を開口したサンルーフ付き自動車におけるテレビの取付構造に関する。

(2) 従来技術

従来、上記自動車の車室内にテレビを設置するようにしたものは公知であるが、そのテレビの取付場所としてルーフの天窓を利用したものはない。

(3) 考案が解決しようとする課題

テレビは、それを見る者の位置によって設置位置を適宜調節できる方が便利であるが、車室内においては、車室内装備品との関係で空間的に制約が多いため、従来ではテレビを位置調節可能に取付けることが困難であった。

本考案は上記に鑑み提案されたもので、サンル

ーフ付き自動車におけるルーフの天窓開口縁部を利用してテレビを位置調節可能に固定できるようにした、自動車におけるテレビの取付構造を提供することを目的とする。

B. 考案の構成

(1) 課題を解決するための手段

上記目的を達成するために本考案は、車体のルーフに天窓を開口すると共に、その天窓を開閉し得る開閉板を設けてなる、自動車において、前記天窓の開口縁部にその開口縁部に沿って位置調節可能に固着される支持具と、この支持具に支持されて車室内に収容されるテレビとを有することを特徴とする。

(2) 作用

上記構造によれば、支持具を天窓の開口縁部に沿って位置調節することによって、該支持具に支持されるテレビを同開口縁部に沿って適宜移動さ

公開実用平成 2-77159

せることができる。

(3) 実施例

以下、図面により本考案の一実施例について説明すると、第1、2図において、自動車Vはその車体BのルーフRに略長方形の天窓Wと、その天窓Wを開閉し得る、スモークドガラスよりなる開閉板1とを有している。前記ルーフRは、車室2に臨むインナパネル3と、車体外板となるアウトパネル4とを備えており、その両パネル3、4間には扁平な空隙Sが形成される。この空隙S内には、前記開閉板1とその下面に重合し得るサンシェード5とを天窓Wに沿って前後摺動可能に案内支持する公知の案内支持機構（図示せず）と、同開閉板1及びサンシェード5を前後駆動するための公知の駆動装置（図示せず）とが配設されている。而して開閉板1及びサンシェード5は、それらの前進限では前記空隙Sより出て天窓Wを全閉

し、また後退限では前記空隙S内に挿入格納されて天窓Wを全開することができる。尚、サンシェード5は、手動操作により、開閉板1から独立して任意の位置に前後移動させることができるようになっている。

前記天窓Wの開口縁部には液晶テレビTが次のようにして位置調節可能に取付けられる。即ち、前記インナパネル3の後端側の開口縁部3aには支持具としての支持ステー6が着脱可能に装着される。この支持ステー6は、第3、4図に示すように断面略コ字形のステー本体7と、このステー本体7の一側壁7aと協働して前記開口縁部3aを上下より挟着し得る保持片8とより構成される。その保持片8は、ステー本体7の中間壁7bおよび保持片8にそれぞれ穿設した長孔9および円形孔8aに挿通されるビス10と、該保持片8に溶着されて前記ビス10に螺合されるナット8nと

公開実用平成 2-77159

により、ステー本体7に対し長孔9の長さ範囲に亘って位置調節可能に固着される。ステー本体7の他側壁7cには、テレビTを回動可能に支持する支持腕11の上端部がビス12により固着されており、このビス12は前記他側壁7cを貫通して、支持腕11の上端部に固定のナット11nに螺合される。

次に前記実施例の作用について説明する。支持ステー6を天窓Wの開口縁部に取り付けるに際しては、そのステー本体7の一側壁7aと保持片8との間にインナパネル3の後端側の開口縁部3aの適宜部位を挟圧した状態で、ビス10をナット8nにねじ込んでステー本体7と保持片8間を一体的に結合すればよい。また支持ステー6の取付位置を変更するには、ビス10を弛めて上記開口縁部3aに対する挟持力を弱めた状態で、支持ステー6全体を左右に適宜移動させるようにすればよ

い。かくして支持ステー6の取付位置は、天窓Wの後端側の開口縁部3aに沿ってその全長に亘り調節可能であるから、その位置調節に伴いテレビTを該開口縁部3aに沿って左右に幅広く移動させることができる。

また支持ステー6はそのステー本体7の扁平な上側壁7aがルーフRのインナパネル3及びアウトパネル4間の空隙S内においてインナパネル3上面に密着しているから、天窓Wの開閉に伴い該空隙S内を前後動するサンシェード5や開閉板1の動きが支持ステー6によって妨害されることはない。

C. 考案の効果

以上のように本考案によれば、車体のルーフに天窓を開口すると共に、その天窓を開閉し得る開閉板を設けてなる、自動車において、前記天窓の開口縁部にその開口縁部に沿って位置調節可能に

公開実用平成 2-77159

固着される支持具と、この支持具に支持されて車室内に收容されるテレビとを有するので、上記支持具の位置調節によってテレビを天窓の開口縁部に沿って移動させることができ、従ってテレビの取付位置を、そのテレビを見る者の座乗位置に応じて適宜調節することができて便利である。またサンルーフ付きの自動車であれば容易に適用できることから、その適用範囲が広い。

4. 図面の簡単な説明

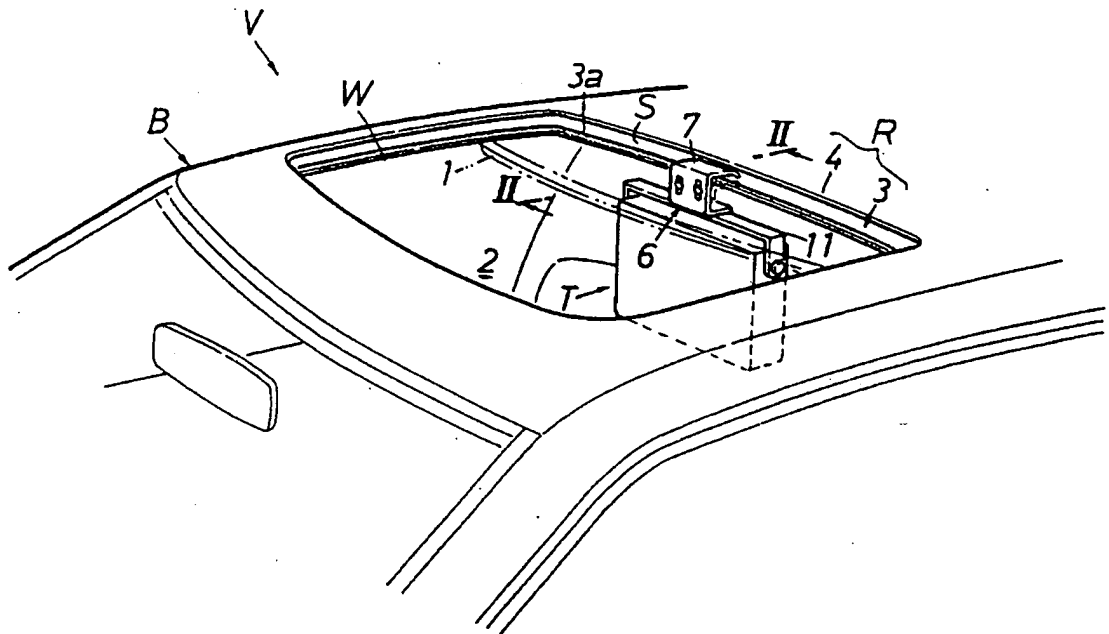
図面は本考案の一実施例を示すもので、第1図は自動車のルーフの斜視図、第2図は第1図のⅡ-Ⅱ線断面図、第3図は第2図の要部拡大図、第4図は支持具の斜視図である。

B…車体、R…ルーフ、T…テレビ、W…天窓、

1…開閉板、2…車室、3 a…開口縁部、6…

支持具としての支持ステー

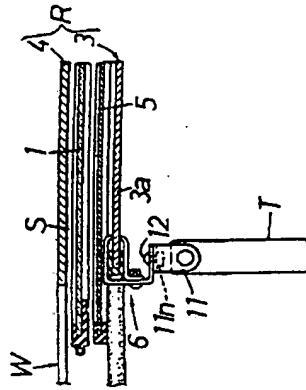
第1図



774

代理人 森田士 落 合 健
 実開2-77159 外1名

第 2 圖



第 3 章

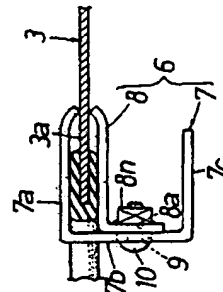
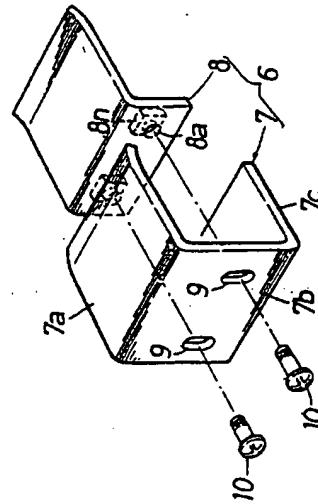


圖 7 裝



公開実用平成 2-77159

522

代理人 井理士 落合 健
電話 2-77150 外1名